



「こんにちは 市長です」

7月15日号

「100万人のクラシックライブ」に出かけた。場所はダニエル。ピアノとバイオリン、演奏者はご両人とも芸大大学院卒。彼（ピアノ）の弾く『ラ・カンパネラ』は圧巻だった。古い友人（元志木市長の穂坂さん）が「100万人の…」の代表である蓑田秀策さんを連れてきた。「誰もが耳にしたことのあるクラシックで日本中をライブしたい」と言う。企業経営をしていたが奉仕活動をするまでになった。「若手の演奏者を見つけ出し演奏活動をさせたい。クラシックを身近に感じてもらいたい」と一念発起。どこから始めるか、穂坂さんが「太田ならやってくれるよ」と案内したそう。協力を約束した。イオン、ニコモールに続いて3回目がダニエルであった。「アンコール曲は『情熱大陸』にしましょう」と担当の人に話した。

私はNHKの音楽番組、大泉洋の『SONGS』が好きだ。この間は「ゆず」が歌っていた。「なぜゆずは誰にでも愛され続けるのか」。大泉洋が絶妙のトークで楽しく聞かせる番組作りをしていた。最近の若者が好む歌は私には合わない。三橋美智也時代の人間だから当たり前。あちこち音が揺れる歌はどうも…である。ゆずはいい曲を書く。音域は広くて2人のハモリがうらやましくもある。そんな折「大学生のアカペラの大会をやろうよ」という提案があった。ゆずは路上ライブからのスタートである。そう言えば、池袋駅前の歩道で、立教の学生だと思うが7・8人でハモっていた。しばらく聴いていたが「グッド」である。アカペラだ。アカペラで大学生が太田に集まってきたら…。大学ジャズフェスタと同じように。

「100万人の…」は聴きたいグループがあれば出前演奏してもいいかな、と思っています。（7/6記）